

イチゴ育苗期における 減農薬病害虫防除モデル体系の経済性評価

福島県農業試験場 経営部

平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

農業経営－農業経営－所得－育苗－病害虫防除

分類コード 15－01－59062300

2 担当者

宮島 聡・新田耕作

3 要旨

イチゴ育苗期における化学合成農薬の使用を抑えた環境に配慮した防除方法として、病害に対しては耕種的防除法(親株の高設ベンチ栽培等)と糸状菌製剤を、害虫に対しては天敵製剤の利用と化学合成農薬を組み合わせることで防除を行う減農薬病害虫防除モデル体系を導入した場合の経済性を明らかにした。

イチゴ苗生産においてモデル体系を導入することで、慣行防除に比べ、

- (1) 化学合成農薬の使用成分数は殺菌剤で8成分が2成分、殺虫剤で7成分が2成分と大幅に削減される。
- (2) 労働時間は、親株の高設栽培による管理作業の省力化と除草作業が無くなることで、慣行栽培より68.3時間短縮する。
- (3) 本ほ10aに必要なイチゴ苗(8,000本)の生産費用は、園芸施設費および農業薬剤費の増額分を労働費の削減額で相殺され22,525円低減する。

4 その他の資料等

なし